

歴史探訪

クラブ

其の
176

History Inquiry Club



文化財課 ☎ 27-1720
(博物館) FAX 22-2028

川澄徳次と和算

皆さん、算数や数学は好きでしょうか。私は大嫌いで、学生時代は数学という教科の存在をのろったものです。そんな私や皆さんが習う数学は実は明治時代の初めに西洋から導入されたもので、明治以前にはまったく別体系で発達した計算法が日本には存在していました。

「和算」と呼ばれたその計算法は、はじめは、測量や暦法などの実用に用いられましたが、江戸の中期ごろからは実用の範囲を超え、人々の娯

楽として親しまれるようになりました。和算の楽しさに魅せられた人々は、自ら考えた問題を出し合い切磋琢磨するうちに、同時代の西洋の数学者に匹敵する、新しいテクニクを次々と発見していきます。

田原においても和算の魅力に取り付かれ、和算の世界にどっぷりと浸かった人がいます。自由民権運動の活動家であった川澄徳次（1859～1911）は、田原出身の和算家としても知られています。徳次は藩校の成章館で和算に出会い基礎を学んだ後、豊橋の塾まで歩いて通い、学びを深め、最終的には新城にある和算の広瀬祐貞塾の塾頭となりました。写真（下）の和算の問題も川澄が作ったものです。

さて、写真の問題ですが、自分なりに解こうとしたのですが、結局提



●川澄徳次の肖像

示されて
いる答え
にはたど
り着けま
せんでし
た。幕末
期から明
治初期の
和算家の
作った問
題の中
は、円の
内接円に
関連する
出題が多
くあり、
この問題
もその流
行にのっ
つてい
るものか
もしれま
せん。

●川澄徳次が作った和算の問題

全有如圖全圓内容甲乙丙丁一十六圓
只云丁圓徑一十寸問乙丙
圓各如何
答曰 乙圓三十寸
丙圓二十寸
術曰置丁圓徑倍之得丙
圓徑又置丁圓徑三之得乙圓徑各合問

明治十七年九月三十日
廣瀬祐貞門人
三河 川澄徳次 著

この問題がつくられた時期からさかのぼること5年、明治5年の学制発布により、学校教育において和算は廃止され、新たに洋算と当時呼ばれた西洋数学が導入されます。同時に江戸の人々が親しみ育んだ和算という文化は本格的に役割を終え、洋算という近代化に必要な一種の技術に取って代わられます。川澄もこの時期に小学校教師となり、和算へのこだわりを捨て、小学校で洋算を教えることとなります。

洋算は何の抵抗もなく川澄を含む

日本の人々に受け入れられました。なぜ、人々が洋算への適応に簡単に成功したかについて不思議に感じましたが、和算によって育まれた、数的教養が下地としてあったからといえそうです。

そう考えてみると、一見、旧時代の産物としてただ切り捨てられたように見える、和算のような文化も、日本が近代を迎えるうえで、基礎として大きな役割を果たしたといえるのではないのでしょうか。江戸の人々が親しんだ和算に思いをはせながら、苦しい数学の課題をこなすのも一興でしょう。

(山本)